



議会だより

No.91

2010

10.17発行

こころのえ



9月定例会

22年度 補正 算情 報告 人
 請 願 委 員 会
 常 任 委 員 会
 特 別 委 員 会
 一 般 委 員 会
 わたしのひとこと

黒岩 豊 清竹
 川上一 小幡

克美さん
 弘さん

P.2
 P.3
 P.4
 P.5
 P.6~P.10
 P.11

晴天に恵まれた野上小学校の運動会（9月19日）

平成22年

第3回定例会

平成22年第3回定例議会は9月15日～28日までの14日間開催されました
議案20件と請願1件、陳情4件を慎重に審議しました。

一般会計は5400万7千円を減額し、
総額で61億3192万7千円となりました。

★補正予算の主なもの

減額

◎退職手当組合負担金

増額

◎泉水キャンプ村の落雷による修理代

増額

◎役場下駐車場法面崩壊工事代

100万円

278万3千円

6257万7千円

九重町教育委員の 任命に同意



井上 東介さん
(67歳) 北恵良二

現教育委員の甲斐素純氏が平成22年10月7日で任期満了となることから、その後任者に満場一致で同意しました。

補正予算質疑

Q&A

Q 九重 夢 創造塾には、当初予算で70万円計上されていたが、今回の補正で新たに30万円計上されている。特別な事があったのか。

A 今回の補正は、地域振興の観点から、福岡ビジネス協会への九重町の宣伝を広げて行くものであり、活動費を補助するものである。

Q 九重 夢 創造塾には、顧問として坂本町長相談役として永尾副町長が、また議会議員が5名参加していると聞く。地域振興の観点から考える問題は無いと思われるが、予算が伴うとなれば、逆に問題があるのでは。

A これまで、いろいろな団体の役職は兼ねてきている。今回の九重 夢 創造塾も顧問として兼ねているが、町の振興や発展に寄与できればとの思いで、大意はない。ただ、問題があるのであれば、辞退することも考える。

Q 庁舎内に九重 夢 創造塾の事務所を置いているが、平等の観点や経費削減を実施している状況から考えると、問題があるのでは。

A 今回の設置は、まだ設立して間もなく、急を要したためであるが、概ね一年を目処に考えている。また、これまで指摘のあった観光協会についても、来年度に向けて、移動場所を模索している。

筋湯地区に 消防タンク車を 今年度中に配備



みなさん方の請願、

陳情はこうなりました。



請願

●高校生年齢の女子にもワクチン接種の助成を求める会代表、増田裕子氏他2名からの「高校生年齢の女子にもワクチン接種の助成を求める請願」は、

今年6月議会で、子宮頸がんワクチンについて町内の女子中学生を対象にした接種費用の全額助成をすることが決まったが、高校生以上の女子が取り残された状態にあり、今年度、高校生年齢の女子までワクチン接種費用の助成対象を拡大してほしいという請願であ



高校生年齢にも接種費用助成が望まれる

陳情

り、高校生の子どもを持つ母親としての請願の趣旨は理解できるところから、採択すること意見の一致をみました。

●国土交通省管理職ユニオン九州支部大分分会長、瀬戸口章蔵氏からの「安全・安心な国民生活実現のため、防災・生活関連予算の拡充と国土交通省の出先機関の存続を求める陳情」については、

国民の安全・安心な暮らしの実現に向けた社会資本の整備や管理は、国が責任をもって実施することが責務であり、安易な地方移譲は行わないことは理解できることから、採択することとし、国に対して意見書を提出する

ことで意見の一致をみました。

●大分県保険医協会会長、松山家久氏からの「子どもたちの命を守るため、ヒブワクチン・小児ワクチン・子宮頸がんワクチン・水痘ワクチン・おたふくワクチンの定期接種並びに無料化を求める意見書提出に関する陳情」は、



5種のワクチン定期予防接種で無料化を

日本では、この5種の予防接種が定期予防接種ではなく、任意でしかも有料であるため、子育て世代にとつては費用負担が大きく、接種したくてもできない状況にあり、定期予防接種として無料化を求める意見書を国へ提出するよう求める陳情であり、趣旨は理解できることから、採択することとし、国に対して意見書を提出すること意見の一致をみました。

●大字菅原地区々長代表、赤峰義庸氏他一名



町道認定の陳情が出た菅原天満宮付近

からの「町道認定を求める陳情」は、

地域住民をはじめ多くの人々が利用していること、幅員が3m以上であることなどから現道整備の必要性は高いとの判断で採択しました。

意見書提出

◆安全・安心な国民生活実現のため、防災・生活関連予算の拡充と国土交通省の出先機関の存続を求める意見書を国に提出。

◆子どもたちの命を守るため、ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチン・子宮頸がんワクチン・水痘ワクチン・おたふくワクチンの定期接種並びに無料化を求める意見書を国に提出。

教育民生観光常任委員会

ふれあい生活課

Q 野上放課後児童クラブでは、12名の児童が狭い施設で生活している。児童や指導者などの環境を改善する必要があるのでは。

A 小学校の空教室を考えているが、管理上で問題があり、今後の課題ととらえ、具体性をもって取り組んで行く。



子どもが集まって来る放課後児童クラブの部屋



一人暮らし老人宅を訪問する民生委員

Q 今回、民生委員の選任では、退任する委員が多く、選定に戸惑っている。多くの問題点があるのでは。

A 国の方針や、基準となる委員数など、地方の社会情勢に沿わなくなっていると考え。ボランティアの原点に戻り、委任している社会福祉協議会、民生委員や行政と、今後の在り方について、協議する方向で考えている。

保健福祉センター

Q 町内の、女子中学生を対象にした、子宮頸がんワクチンの全額助成が、6月議会で決まっているが、現在の接種状況は。

A 9月9日現在、対象者149名に対して、接種者は76名で接種率は51%である。短い期間での接種率であり、今後も増えると予想される。

Q 高校生にも子宮頸がんワクチンの無料化をと、請願書が出ているが、保健福祉センターの考えは。

A 基本的には、予防の観点から考えると、接種した方が良く考える。ただ、予算を伴う案件であり、内部での調整が必要と考える。

総務課

Q 退職手当組合への6千200万円の減額は、当初見込みで判断できなかったのか。

A 5年に1回の見直しの年で退職者が多かったが、今後5年は大幅に減少する。また、5年後は6千万円減額になる予定

企画調整課

Q コミュニティーバスの実証運行の状況と予定コースを伺いたい。

A 既存のコースで小園線は野上と関係が深いので見直したい。東飯田は中須く田尻く野倉く竜門く前辻く役場を結ぶコースと恵良駅く下旦く上旦

総務建設産業常任委員会

く農協く役場く引治駅のコースを11月から週3回予定している。



東飯田地区でもコミュニティバスが走る

A 平坦部は農地・水・環境保全対策で事業を実施している。中山間地域の事業は主に所得補償的なもので行っている。

Q 町単水路や農道の災害状況はどうか。

A 今年は少なくとも現在で7件ほど。

Q バイオセンターは、去年ハウスの予算措置がされたが、骨組みだけでビニールは張られていなかった。現状はどうなっているか。

A 詳しいことは把握していないので調査したい。

農林課

Q 中山間地域の助成事業は、平坦部の農地関係には活用できないか。

高校再編問題対策特別委員会

《中間報告》

郡内に高校は一校、何としても
残さなければならぬが……

高校再編問題対策特別委員会は平成20年第一回定例会において設置され、これまで20年に17回、21年に5回、22年に2回、計24回の特別委員会を開催してきた。

これまで本委員会は、両町議会特別委員会の合同会議、正副委員長会議、意見交換会、懇談会等々を精力的に開催し、本問題に係る情報収集・分析を行うと共にその解決方策を模索してきた。

こうした中で、県・県議会・県教委への後期再編整備計画に関する陳情書の提出や「玖珠郡

高校を考える会」に参画し、玖珠郡の高校を考えるシンポジウムの開催等に積極的な関わりを行ってきたところであり、一定の評価はできるものと思う。

しかしながら、6者協議において確認済みである郡民の総意を示すために、陳情よりも重き扱いとなる請願の提出が果たせないままになっている。

このことについて、本委員会では現在においても有効な確認事項としているが、ここに来て6者協間に微妙な差異が生じており、本問題そのものに対するスタンスのとり方が難しくなっ

ている。

こうした状況を打開するためには、6者協の開催が不可欠であることから、3者（九重町側）で協議した結果、うやむやになった状態では次の段階に進み難いことから、一旦けじめはつけなければならぬものと考え、何れにしても、玖珠郡に最低でも高校を一校は存続させなければならぬので、今後存続に向けた取り組みの強化を図る。

以上、高校再編問題対策特別委員会の中間報告とする。



5名が一般質問

ここが聞きたい!

ズバリ 町政 を問う

被害農家の救済と今後の取組は
認識している県の事業に乗り取組たい



藤原 三治

藤原 晩霜冷被害は、梨だけに止まらず、ブルーベリー、リンゴ、ギンナン等、多岐にわたって深刻である。町は、梨に対して堆肥の助成を決定したが、また他の作物に対する助成は考えられないか。梨農家への共済金の支払い状況は、共済の加入者が減少しているが、町は内容を精査して、生産者に有利な中身になるよう働きかけはできないか。また、転作や放棄された畑の状況をどう把握しているのか。

町長 農作物の被害についてははげしい状況にあると認識しているが、梨以外の支援については考えていない。共済金の支払いは9月末ま

でに70%を支払う事になっているが、来年度の加入者数は把握しておらず、確認してみたい。

耕作放棄地については、農業委員による調査を行い、猪の巣にならないよう協議しているが、解消していない。品種の開発については、特に指導は行っていないが優良の品種があれば考えていきたい。

有害鳥獣対策は
要望があれば検討したい

藤原 樹木から畑の作物まで猪と鹿の被害が増加している。玖珠町では大規模な防護柵の設置や、県の指導による囲いワナの設置で、鹿の捕獲に大きな成果をあげている。有害鳥獣の被害は待ったなしの所に来ている。大規模な柵や囲いワナの設置等負担金の要らない防衛予算で行えないか。

町長 昨年、駆除の金額を引き上げ、猪96頭、鹿21頭が捕獲された。農家から駆除申請も多く、かなりの被害が考えられる。8月、県で会議があり玖珠は囲いワナに取り組んでいる。九重町も生息調査を行い、場所を特定し、大きな成果を上げるようであれば取り組みたい。防衛予算については、要望があれば検討するが、鳥獣対策に対し国は、昨年の5倍の予算を要求しており大規模な柵で集落を囲む等の対策が優先されると考えられる。要望があれば検討したい。



試験設置で成果を挙げている囲いワナ

竹材整備で収入を上げられないか
今後、県からの依頼があれば募集したい。

藤原 転作、有望な品種が見当たらない中で、県が奨励している竹林整備事業に補助金も出ており、県下各地で粉碎機を導入し取り組んでいるが、九重町でも取り組んではどうか。竹林整備を行う事により、猪の被害の減少や美しい景観を保つ事ができ、農家の収入、所得向上にも繋がる事が期待される。幸い県も前向きに取り組み補助事業も出ている。町民に解りやすい説明をして募集できないか。

町長 県からの竹林整備事業の取り組みの話は来ている。

今後調査や要望があれば、チラシに詳しい説明をつけて募集したい。粉碎機導入は、町で持つ事はむずかしいので団体や森林組合等に依頼して、整備をする事が望ましいと考えている。



まちづくり基本条例活用の努力を

これからもっと活かしていく

井上 九重町まちづくり基本条例は、平成17年2月1日、ちょうど町制施行50周年記念の日に施行された。

条例は、13章37条から成っている。第1章総則の中に、条例の目的として「本条例は、九重町のまちづくりに関する基本的事項を定めるとともに、住民の権利と責務及び議会と行政の役割と責務を明らかにし、住民自らがまちづくりに参画し協働することによって、住民自治の実現を図ることを目的とする」と示されている。当然、議会と住民の努力も必要であるが、行政の果たすべき役割と責務は大変大きい。

まちづくり基本条例施行後、5年7カ月余りが経過しているが、条例がまちづくりにどのように活かされているのかよく見えない。

基本条例の中で、今後特に力を入れて取り組むべき部分は、

- ・第6章 参画と協働
- ・第7章 地域自治

（主として、地域自治の育成、地域づくり協議会に対する支援）
・第9章 情報の共有と説明責任、行政評価
だと思ふ。

以上の部分に力点を置きながら、基本条例全体を5年を越えない期間ごとに、住民と共に検討、見直しをして、まちづくりに十分活かしてもらいたい。

町長 この条例は他の市町村に先がけてつくったもので、まちづくりの法律だとも感じている。

今少し、いろんな機会に、条例について住民に徹底して説明していかなければと思っている。

条例の中で、行政評価制度については、評価制度や評価委員は設けていないが、内部で評価し、町民の皆さんにもいろんな形で報告している。

これまで力を入れてきたことは、地域づくり協議会の設立で、各地区担当課長がリーダーとなつてようやく形ができたところである。これから私どもがもっとリーダーシップを発揮しながら、実際の行動に移す時期だと思っている。

公民館を中心に地域づくりをし、それによって参画や協働をやっているというところで、ここに少し力を入れた面もあるが、5年間という中で、反省すべきは反省しながら、これからも条例をもっと活かしていきたい。

井上 町の第4次総合計画の策定作業を本年度から始めることになっている。平成13年度に第3次総合計画が策定された際は、計画策定委員18名全員が町職員であったが、今回は、まちづくり基本条例に、諸計画策定への住民参画が定められている。策定委員の13程度は、公募を含めた住民代表が加わるべきである。

企画調整課長 また、策定委員の人選にはいってないが、そういうことも考慮したいと考えている。

東飯田地区公民館にエレベーターの設置をもう少し熟慮したい

井上 東飯田地区公民館は、大集会室が3階にあるため、そこで行われる諸行事や会合、介護予防教室（毎水曜）等に、高齢者や身体の不自由な人が階段を上がって参加するのが大変である。

エレベーターの設置が望まれる。

私は、以前にもエレベーターの設置を求めた一般質問を行ったが、そのままである。町としては、エレベーターの設置は優先度が低いということ

であるが、私は、以前にもエレベーターの設置を求めた一般質問を行ったが、そのままである。町としては、エレベーターの設置は優先度が低いということ

であるが、私は、以前にもエレベーターの設置を求めた一般質問を行ったが、そのままである。町としては、エレベーターの設置は優先度が低いということ



エレベーターの設置が望まれる東飯田地区公民館

あるが、私は優先度は高いのではないかと考える。本年度、特交付金から、飯田の道路（梅木津留木線）整備に3千万円、栃木栗原線整備に2千万円が充てられている。町道の整備も重要であるが、エレベーターの設置も重要である。教育長の考えをお聞きする。

教育長 前の質問の際、エレベーターの必要性は十分理解していると答えたと思う。必要性は高くても、いざ事業となると優先度ではどうしても後回しになってしまう。

加えて、中学校の統合場所も決まったので、跡地の再活用問題も絡めて、今の公民館がずっと今の場所でのよいのかどうかという議論も一部にある。跡地の再活用ということも視野に入れた議論をばつぽつといていくべきではないかと考えている。

エレベーターの設置については、もう少し熟慮していきたい。



高齢者の所在不明は

法務局と協議、職権で処理したい

小川 国内で高齢者の所在不明が多発。法務省の調査によると、戸籍があつて所在が確認できない百歳以上の高齢者は、全国で23万4千人あまりという。

町内でも戸籍に残る百二十歳以上の不明は20人と聞く。所在不明の実態と戸籍に残る要因を伺いたい。

町長 8月末現在、戸籍に現存する百歳以上は70名で、内20名が百二十歳以上になっている。戸籍に残る要因としては、明治5年に編集された人身戸籍の基は、寺が所有する台帳（過去帳）に基づいて作成されており、現在の戸籍も昭和22年に家の戸籍から個人の戸籍に変わり、その時に適切に処理されなかったと考えられる。今後、法務局の許可を得て職権で死亡記載等で処理をしたい。

亀鶴苑 移譲後の問題点は

譲渡契約の履行に努力

小川 養護老人ホーム亀鶴苑は、平成19年に「社会福祉法人玖珠会」に無償譲渡され、移譲後4年を迎えた。築後41年が経過、老朽化も進んでいる。民営化に係る移譲先募集要項で、譲渡を受けた法人は、譲渡後も同一場所

町長 亀鶴苑は、民営化に係る譲渡先募集要項で公募、玖珠会に移譲した。譲渡に伴う条件等は、譲渡契約書で適切に履行するものとなっており、募集要項に記した内容が譲渡に伴う条件。譲受者の義務で、同一場所でのホームを継続、運営することやおおむね3年以内に建替等が記載されているが、現状の経済情勢等を考えると厳しい面もあり、引き続き協議をしていきたい。



現在地周辺での建替が望まれる亀鶴苑

子宮頸ガン 集団接種は

学校関係の協力が必要

小川 子宮頸ガンは、10代前半にワクチン接種することが望ましいとされている。年間約1万6千人が発症、約2千5百人が死亡。

九重町は、国・県に先駆けて中学女子全員に費用の全額助成を決めた。スピードある取り組みで評価できるが、現状の接種状況と副作用、並びに集団接種はできないか伺いたい。

町長 9月9日現在、対象中学生は149名、内76名が1回目の接種を終えた。率で51%。

集団接種については、全国的にもほとんどないし、学校での集団接種を適切とする養護教諭は4%に満たない。逆に、医療関係者は半数以上が学校で集団接種をするほうが効果が上がると言っている。今後、学校関係者の協力も必要なことから研究したい。

副作用は、一例問い合わせがあった。



農業委員会の機能強化

委員会の活動に期待



トウガラシの植付を指導する農業委員

江藤 国では、行政改革の一環として農業委員会を、任意設置に変更する旨の議論がされている。国の制度がどうなるうとも委員会は残し、機能強化すべきである。独立した行政組織だから事務局長は専従にすべきでは。農業委員会の在り方や今後期待することは。

町長 高齢化により耕作放棄地が多くなっている。この対策又、一番重要なことは担い手の育成、結婚対策等、その解決に向けて最大の努力を期待したい。

局長の専従、検討はしてみますが、合併をせず自立を選び、職員に余分はなく、今の段階では無理と考える。

官公庁オークションの利用

江藤 不用品や処分品をどう処理しているか。官公庁オークション・公有財産の売却の利用はどうか。

近隣では、日田市・小国町・大分県等出品している。色々と課題もあるが、価値ある物は、それなりの対価で売る努力を、調査研究されたい。

調査研究する

町長 不用品の現状は、故障しているものが大部分で廃棄処分している。想定されるオークションは、土地建物・自動車関係・差し押さえ物件などで、予定価格の設定、保管場所等が問題。又、不落の場合の対応など、問題も多い。調査研究し取り組んでいきたい。

施設の老朽化どうする、経営は

それぞれ今後の在り方について検討



経営改善が急務！赤字が続くバイオセンター

江藤 バイオセンターは、第三セクターで運営されているが、町は合併をせず、自律推進計画では、民間委託等を目指すとなっている。現実にはそうならず、毎年赤字を出し続けている。国の法改正により公益法人は、その仕組みを平成25年11月までに変える必要に迫られている。どのような形態を考えているのか。

ふるさと館は、現在ふるさと館活性化協議会に指定管理に出しているが、ここの農産物の売り上げは年々減少傾向で経営は厳しいのではないのか。現状からすると将来的には、管理運営は心許ない。今後どうするのか。温泉館も老朽化している。下から見ると結構亀裂が入っている。今後大改修等迫ってくる。バイオセンターは理事会、ふるさと館と温泉館は指定管理者と、それぞれ今後の将来展望をふまえた議論をされたい。

町長 バイオセンターは、25年11月までに何らかの方針を出さなければならぬ。方法としては、一般法人への移行か、一度解散して、新たな団体をつくる等、どういう方法が一番いいか検討していく。

温泉館の利用客は、年間3万人程度で、町内・町外半々程度の利用である。

施設は老朽化も進んでおり、ある一定の方向を出さなければいけない。今後については、内部協議もさることながら、動向を見て検討していく。

農業と観光が一体となった地産地消で 九重町に魅力を

今、観光協会が米についてアンケート調査を



佐藤 博 美



今年は多くのネギ畑が病害虫に

町長 地産地消による安心・安全で新鮮なおいしい食材を使った特色ある食づくりということで、米については、観光協会が会員を対象に年間消費量や仕入れ先、使用希望等についてアンケートを行い、地産地消を進めていきたい。今後、農業・商業・観光の連携を進めていく。

佐藤 農業と観光が結びついた地産地消で農家の収益が増え、ホテルや旅館は地産地消による「安心・安全」でこだわりの食材を使う事により、新しい魅力を作るためには、もっと行政が積極的に取り組むべきでは。



地産地消で地元産の食材を

佐藤 学校給食に九重町内で取れた安心・安全で新鮮な食材をもっと多く使うためには、今の賄い材料は給食費だけで賄うのは限界がある。町が少しでも負担をしてでも地産地消を進めるべきではないか。

町長 九重町内で取れた食材をもっと多く使うためには、この事で給食費が高くなり、保護者の負担が増えない様、別枠で手当てするか、そういったことも検討してみたい。

別枠で手当とする事も
検討してみたい

学校給食も九重町産の
安全な野菜を

町の水路・農道改修補助金の増額を

今回の議会で200万の補正を



生コンクリートやU字溝がまだまだ望まれる

佐藤 3戸以上の農家が集まって作業を行う町の生コンやU字溝の現物支給、500万の予算では少ない。もっと増額をすべきではないか。

町長 町単独の水路・農道の改修費補助金は500万円をベースに事業をしているが、今年は申請件数も60件を超え多いので、9月議会で200万の補正を組んで事業を進めていきたい。

わたしのひとこと

私の秋

南山田 黒猪鹿

清竹 克美さん



先日、娘の通う小学校の行事で『親子リフレッシュ体操』に出席しました。講師の先生によるご指導のもと、楽しく体を動かしながらも、日頃の運動不足を痛感しました。筋肉や脂肪の働きのお話もあり



みんな健康がなにより

ました。筋肉は、赤筋と白筋に分かれ、魚に例えると、マグロの様に長く泳ぎ続ける魚に必要な赤筋、そしてヒラメの様に普段は動かず、瞬発力のある魚に必要な白筋があるとの事です。

私の赤筋と白筋は何処かしらと思いつながら、翌日筋肉痛の体に湿布薬を貼りました。そんな私の耳に、「イチダンバーラー、にー段腹、三段腹」と妙な数え歌が聞こえてきたのです。テレビで覚えたらしく、楽しそうに娘が歌っていました。

今にも、私の腹部の数を確かめられそうなので、今年は『食欲の秋』より『健康の秋』に励もうと思います。まずは、娘も大好きな、ケーブルテレビでも流れている『しあわせ健康体操』を息切れしないで、元気に歌って出来る様に頑張ろうと思っています。



文化財に親しもう！

東飯田 川上一
小幡 弘さん



私が、文化財調査員になって早十年になるうとしていました。私は、長年地元を離れていましたので、ふるさとにどんな文化財があるのかを知る良い機会になりました。皆さんは、「文化財」と言うとか大変難解なものに思われるかも知れませんが、



すばらしい郷土の史跡を探访しては
(県指定有形文化財「宝八幡宮国東塔」)

実は皆さんの身の周りにある、いつも目にしているものなのです。先日、私は「ふるさと探訪ウォーキング」の方が下見のため私の家の近くの史跡を見て歩きたいとの要望を受けて、周囲4〜5kmの中にある4〜5ヶ所の町・県指定の文化財を道案内しました。この様に、九重町内では数kmの間に文化財に指定された数多くの史跡を見ることが出来ます。また、それ以外にも城跡や大樹、御堂、角々にある地蔵など指定されていない物でも素晴らしいものが多くあります。厳しかった夏が過ぎ、心地よい秋風の中、皆さんも散歩のついでに、今まで目を向けなかった道沿いにある小さな文化財に接してみたいかがですか。

思い出のアルバム No.3

傍聴へ どうぞ

次回は12月中旬予定

頂 雑 物 金 物 乾 産 藻

出征兵の送別会。昭和14年1月15日撮影。野上、日野商店前にて。写真提供：日野雨郎氏（右より4人目の子ども）の叔父を送る親戚一同。昭和7年下町の大火によりこれより下は焼失した。後の建物は焼け残った日野商店

議
会
だ
よ
り
こ
の
え
NO.91号



発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成22年10月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス（議会議務局）gikai@town.kokonoe.lg.jp.

お手持ちのなつかしい写真をお貸し下さい

編集後記

今年の夏は、猛暑が続きましたが、九月に入り朝夜は涼しくなってきました。九月議会も始まり、今回の定例会は国の政治経済の状況が地方にも影を落とす中で行われました。行財政改革の厳しい流れの中であればこそ、皆様のより良い生活を守る町政の実現が望まれます。そのために、委員一同開かれた議会情報を読みやすくお届けするように心がけております。多くのご意見をお寄せ下されば幸いです。

竹尾 允文

- ・広報委員長 竹尾 允文
- ・副委員長 藤原 三治
- ・委員 小川 克己
- ・委員 江藤 一幸
- ・委員 佐藤 博美
- ・委員 日野 康志